



発行  
 浄土真宗本願寺派  
 新潟教区門徒推進員連絡  
 協議会

第11号  
 H26年3月1日発行

# 一大事



新潟教区教務所長  
 野村 宗雄

「これはお家の一大事」とか容易ならぬことが起きたときによく一大事と言いますが、元は仏教に由来する言葉で、浄土系の仏教において、一大事とは浄土に往生することが一番、ただ一つの大事なことで「後生の一大事」を申します。しかしそれはまた、欲に惑い老・病・死におののき、行き先不明な私どもに確かに帰れるところがあり、今生を安んじて生き尽くせることから「今生の一大事」でもあります。そして、その往生のただ一つの手立てこそ「南無阿弥陀仏」とお念仏申させていただくことであります。ご承知の通り親鸞聖人のみ教えを聞く私どもには、お念仏が一番大切であります。

さて新潟別院においては、御本尊に経年からの損傷が生じてきましたので、現在ご修復中であります。御本尊とは本当に尊いということ。如来さまが念仏申す私たちがお浄土に往生できないならば仏とならないと誓われるご本願が形となり現れてくださった姿を申します。ですので、それにふさわしい莊嚴なお姿に、言いかえればお念仏申すことが一番大切だから、それにふさわしい本心に尊い帰依礼拝の対象のお姿となっていたいただくためのご修復といえましょう。

如来さまのご本願、後生の一大事、お念仏申すこと。みんな別のことではなく、ただ一つの尊い、大事なことであります。

では、私は、御本尊を中心に、後生を心にかけて、お念仏相続の日暮らしをしているのでしょうか。

ある標語カレンダーにこんな言葉がありました。「**一大事 忘れて過ごす 凡夫かな**」

最後になりますが、門徒推進員の皆さまに

は、今後とも門徒の自覚に立って種々活動に益々ご精励され、組、教区・別院の事業への参加、参画にご協力いただきますようお願い申し上げます。

## 教区門推協代表としての二年間

新潟教区門徒推進員連絡協議会会長



与板組 雲外寺  
 丸山正義（釋正義）  
 中央教修一八七回

私なりに二年間を総括しますと、戸惑いと代表者の重大さに身が縮む思いでした。その中でも、役員の方々に多くの助言、協力を頂きながらここまでこられたこと有り難く思います。

一年目は、これまでの基幹運動として「全員聞法・全員伝道」の実践のもと活動を行ってきましたが、本山本願寺と宗派の分離、又、基幹運動が変更され「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)へと、実践目標として「念仏者の私が寺院活動を通じ、地域社会とのつながりを持ち『ご縁』につながる活動を推進する」へ変わり、今まで行ってきた活動とどこが変わったのか、変わりのない自分に気付くまでの戸惑いがありました。

二年目は、新潟教区門徒推進員連絡協議会設立30周年記念大会を向かえ、教区門推協役員会、実行委員会、又教務所の皆様に多大な支援をいただきました。中でも、全国に先駆けて門徒推進員連絡協議会を新潟の地で設立された先輩諸氏、長年後輩を導びかれてこられた役員の方々へ感謝状を贈呈出来たことは嬉しく思いました。又、全門徒推進員の方々へ委嘱状を渡されたことは、門徒推進員としての自覚を持ち「御同朋の社会をめざす運動」、寺院活動を通じ、地域社会とのつながりを持ち「ご縁」につながる活動へ参画されることを願います。

この記念大会に、教区門徒推進員二百余名おられる人数から見ますと、二十五%弱の参加で、寂しさも少々あります。私ごとですが、この二年間教区門徒推進員の方々へ、毎月の法語を自分なりに選び届けることにより色々な本を読み返すことができ、良かったと思えました。

## 門推協30周年記念大会に参加して



与板組 常禅寺  
小林久子（釋久智）  
中央教修一七一回

平成25年10月20日、21日と二日間にかけて設立30周年記念大会を新潟別院と岩室温泉「富士屋」にて開催されました。

現在、門徒推進員の人数は、各組合わせて二百数名いらっしゃいますが、出席された方は非常に少なく、50名くらいでした。もう少し出席して頂けたらなーと残念に思います。でも、全国に先駆けての30周年、この長い間教区門徒連絡協議会が続けて来られた事に、私は敬意と尊敬の念で心から感動致しました。

今まで、どれ程の苦勞と努力があった事でしょう。初代会長始め皆々様の心からの自覚と、信頼と絆の賜物と心より感服致しております。と同時に、これからの門推協が一層の絆が深まり努力していかなければならないと思えました。そして、若い方達にもっと会場に来て頂き、門推という指針を知って頂き、参加して頂きたいと思えます。

これは私個人の意見ですが、時には、住職様方にもご出席して頂き、指導者の立場よりご意見を出して頂き、協議会を進めて行かれたらよろしいのではないかと思います。

今年6月の法統継承式で、新たな時代を迎えようとしております。私達も、この30周年を迎えられた喜びと共に、今後ずっと門徒推進員の仲間とこれから出会える沢山の仲間と楽しい教区門徒推進

員連絡協議会を続けて行かれますように、心より願っております。本当にお疲れ様でした。 合掌

## 門推協30周年記念大会に参加して



長岡組 善行寺  
渋谷義弘（釋法眼）  
中央教修一四〇回

門徒推進員連絡協議会ができ、早くも30周年が過ぎました。記念大会も厳かの中にも楽しく終わりました。

当日は、私も役員の一人として参加しておりました。お昼を過ぎると、遠方の人、近隣の人、各組の方々とは会場いっぱいになりました。教務所長、来賓の方々とは大勢の出席のもとで会は時間通りに進められていきました。夜はまた、岩室温泉で最高に楽しく過ごすことが出来ました。

翌日は朝7時のお勤めから始まって11時頃まで各組の活動報告・全体の話し合いと、時の経つのを忘れ、時間が足りないくらい楽しく有意義に終わりました。これも皆先人のおかげ、誠に有難うございました。心よりお礼申しあげます。 合掌

## 私とお念仏



長岡組 長永寺  
安井里子(釋願心)  
中央教修一四〇回

我が家は代々み教えを喜ぶ信仰の厚い家系だったと思われます。いつの世の物とも知らぬ古り果てた仏様のお軸が大切に引き継がれていて、盆や正月には皆で拜んでいました。

私は亡き母や主人の言動を通してみ教えの尊さ・有難さを知り、いつしか聞法をこよなく喜ぶ身とさせていただいたのであります。

母は十年余り寝たきりで、百歳を超え亡くなりましたが、最晩年何もかも忘れてしまった脳裏に残ったものは、只、お正信偈とお念仏だった様です。時折、小声で唱えている姿に苦しみの多かった母の人生を重ね、偲ぶばかりでありました。

母のあと二年、主人も亡くなり途方にくれていた私に、ふつとあの日の約束が蘇り来たのであります。それは亡くなる十日前のこと、主人の具合がとつても良く死後の世界に触れた時、私が「お父さん、私が死ぬときにはきつと迎えに来てね」と言い、主人は黙って大きく頷いてくれました。只

それだけのたわいない会話なのですが、日が経つにつれそれは大きな約束であり、「ずっと見守っているよ」と言う言葉だった様に思えてきたのであります。

主人が亡くなり三年余り、主人と母が遺してくれたお念仏を喜ぶ心に生かされて、いつか主人を迎えに来てくれる日まで精一杯生きてゆこうと思うこの頃であります。

合掌

## 在りし日进行



元上組 明鏡寺  
若月トシ(釋是証)  
中央教修一八二回

私の良き理解者であり、お互いを大切に思い頼りにしていた人(主人)が、「色々ありがとうね」と言ってお浄土へ参ってから8ヶ月が過ぎました。元気で日常を送っていた人が、急に入院し、8ヶ月で命を終えてしまい、あまりにも急なことで夢の中の出来事のように感じ、今でも「ただいま」と帰ってくるような錯覚を覚えます。

親鸞聖人が、自分の人生は誰とも代わることが出来ず、良い事も悪い事もすべて引

き受けて生きていかなければならない旅であり、悩み苦しんでいる時も、嬉しい時も悲しく辛い時も、阿弥陀様がいつも一緒にいて下さると教えて下さったみ教えの言葉が、私の悲しみの心に素直に入り、有り難く救われたように感じる事が出来ました。

今の私のいのちは、辛く悲しい現実ではありませんが、正面から受け止め、この現実を乗り越え生きていくことがお浄土からはたらかのうに感じております。

いつも主人と二人で、寺・組・教区の活動に参加させていただき、皆様と共に楽しく有意義な時々を過ごさせていただいた頃を懐かしく思い浮かべ、大変有り難い事であったとしみじみと感じております。主人が皆様と出遭い、交流させていただきお世話になりましたことを心より深く感謝申し上げます。

「呼べどもこたえない人、掌をあわすれば通いあう心」、日々お念仏申しておりますと、側に寄り添い、見守り、励まし、導いてもらっているように感じることがあります。主人がいつも、何事にも前向きに、自分のいのちを精一杯生きていたように、私も自分を一生懸命生き、御同朋の皆様と共に、み教えを喜ぶ人の輪が広がるように努めていきたいと思っております。

合掌

## 30周年記念大会に感謝状を頂いて



元上組 託念寺  
小林章栄（釋行憲）  
中央教修 二二回

かえりみて30年色々なことが思い浮かびます。連研で学び中央教修で磨かれ決意表明をし、活動に燃えて帰っても「何をすればいいのか」・「何かをしようとする」と「住職さん、寺の役員さんと衝突してしまう」。これではと言う思いで当教区の専従員さんの麻田秀潤さんに色々相談し、麻田先生のご指導で新潟教区門徒推進員連絡協議会が設立されたのです。

この度、門徒推進員連絡協議会設立30年に身に余る表彰を頂き、心から有り難く感謝いたしております。設立以来24年、微力ながら会長を仰せつかり、そして今日にいたりました。今それらを振り返るとき、組織の在り方、活動の在り方、そして取り組み方が走馬灯のように浮かんできます。重圧に圧倒されそうになったこともありましたが、会員の皆様、歴代の教務所長様、教務所の役員員の皆様、ご寺院の住職様始め多くの有縁方々よりお育て頂いたお陰と感謝申しあげます。

至らぬ私を支えて下さった今は亡き法兄平沢忠男さん、大越一二さん、安井伸一さん、若月光男さん、思い出されてなりませぬ。「30周年記念大会」を書きつつ寂しさが込み上げたが耐えて書きました。有難うございました、皆さんと歩んだ30年、思い出は山程あります。

平成11年7月に荒廃し著しい別院の早期着工の「要請書」を教務所長始め宗会議員・教区会議長・教区の各役員に提出し、平成13年11月別院落慶法要の参加及び手伝いしたこと。ご臨席くださったご門主様へ清酒（米百俵）と、書籍「米百俵」小林虎三郎の師思想」そして冊子「米百俵物語」をお贈りいたし、教区門徒推進員連絡協議会に礼状を頂いたこと。また、中央相談員の「復職」について「申し入れ」本願寺派総長竹野以徳様に提出したこと等。

平成16年10月23日発生の中越地震ボラントリーア活動に多くの仲間と吹雪の中、震災避難所にドラム缶の除夜の鐘「希望の鐘」を設置打ち鳴らしたことが、本願寺新報に大きく掲載されたこと、また、本願寺御影堂平成大修復完成慶讃法要が平成21年5月22〜25日まで厳修され、教区代表として献花させて頂いたこと等は終生忘れられない思い出であります。

門徒推進員として所属寺での手伝い、教団・教区・組の基幹運動推進に参加させて頂き、多忙と緊張の30年間でしたが、同じ

信に生きる同朋が同じ目的を持って行動することは楽しく、張合いがあり励みでありました。有難うございました。

過去を知ることが、現在の自己の反省となり更に将来の門徒推進員として門徒推進員連絡協議会の将来の活動へとつながることを希望してやまない。この30周年の記念大会を機縁として、いのちのあらん限り門徒推進員として、みずみずしく、エネルギーに、祖師親鸞聖人のおことば「世の中安穏なれ 仏法弘まれかし」に務めてまいりたいと思っております。 合掌



門徒推進員連絡協議会設立30周年記念大会

# 30周年記念大会に参加して



三条組、長念寺  
谷江 清（釋住諦）  
中央教修一六四回

早いもので、もう5年が過ぎたのかと思  
い出の中、25周年の記念誌作りを振り返っ  
ていました。

中央教修を終わって、3、4年で門徒推  
進員連絡協議会の役員会に参加する事とな  
り、初めての記念誌作りの手伝いをする事  
になり、何も解らないまま参加してしまし  
た。只、今までの25年という長い間、踏ん  
張っていたいただいた元上組の人達、小林章栄  
さん達の力があつて出来た25周年記念誌で  
した。

自分の事では、5年前と比べると南無阿  
弥陀仏も少しは身近になり、毎日の生活の  
中で称えている様になりました。

30周年の式典に参加して、顔見知りの仲  
間が多く出来た事が大変うれしく思い、月  
日が経つのが早いものだと考えていました。

岩室温泉「富士屋」では、一泊で仲間達  
と多くを語り、楽しい1日でした。只、私  
は一日で朝早く帰らなくてはいけなく残念  
でした。また、御同朋として一緒に自分が

出来る事から運動を続けていきたいと思  
います。 合 掌

# 第164回門徒推進員中央教修



三条組 光照寺  
小澤悦郎（釋悦楽）  
中央教修一六四回

我ら小出、谷江、小澤、田中、宮嶋の  
5名は、新潟教区三条組から平成17年1  
月、本願寺聞法会館にて研修を積んだ同  
志でございます。

第4日目（最終日）の全体会の折り、  
「今後毎年同期会を行おう！」との動  
議・発言が同志の小出氏からあり、全員50  
名の賛同を得た。

翌年の初回は「広世会」と名称を付け、  
奈良教区が幹事役を引き受けた。  
（影の声）新潟教区が言い出しっぺなん  
だから、早くに行った方が…）

平成19年の第2回「広世会」は、新潟  
教区が団結して快く幹事役を受けた。中  
越地震後ではあったが、長岡・蓬平温泉  
にて一泊、翌日は上越市へ足を伸ばし「ゑ  
しんの里記念館」並びに「岩の原葡萄園」

を見学し好評を博した次第。毎年の事な  
がら、新潟教区5名は越後の地酒『淡麗  
辛口』を携えて九州・山陰・近畿と西日  
本各地をも皆勤で、広く見聞を深めてい  
る。

昨年、第8回「広世会」も再度、新潟  
教区に依頼があり、往復ともジェットフ  
オイルを利用し、佐渡で開催（出席者32  
名）致した。（これが最後かとも思ってい  
たが…）本年の第9回「広世会」は、6  
月末安芸教区が担当いたし、広島にて開  
催の通知があり！（嬉しき悲鳴なりき…）  
【地区広世会の活動・報告】

例年、2ヶ月毎に、三条別院「海老勢  
の間」(正しくは、東三条駅前の居酒屋「海  
老勢」)にて、毎回2時間余り時事放談し  
ながらも、人格の形成に努めて居ります。  
愉しきかな、人生！

合 掌

# 吉祥止止（きつししょうしし）



地藏堂組 勝敬寺  
矢澤正行（釋正行）  
中央教修二〇六回

昨年65歳を迎え、翌年は何を目標に生活して行こうかと考えた時、ふと思つた言葉はこの吉祥止止でした。荘子の言葉で色々な解釈がありますが、つまり心にわだかまりがあつたり、物欲で凝り固まつたりしている時は、他人のアドバイスが聞けず、人との交際もうまくいかないものです。すべての偏見を捨て、新しい考えを…。

毎年賀状を出すとき新年の挨拶文に四字熟語を書き入れるのが近年私の生活スタイルです。凡夫の私としてはこの4文字は言葉で理解できても現実には、物欲も人一倍強いし結果も大いに期待してしまいます。

戦後復興を目指した日本人の心情と同じで、最初は貧しさから抜け出そうと考え、次に人並な生活を送りたい、最後は豊かさを求め、人よりも更に上へ…。自分と、自分の家族だけはより豊かにと、私を含め現代人にとって幸福のレベルが明確に見えないのが最近の傾向ではないでしょうか？

自分の子供が誕生の時、最初ほどの親も五体満足をお願いします。成長と共に頭の良さも気にしますし、女の子ですと美しさも期待します。体の大きさも同様です。一番大切な精神面が最後に来るのは残念ですね。無事生まれた我が子の事を忘れて、私が子供の頃は当然ですが、釜戸で炊きたてのご飯を食べていました。が、育ち盛りの子供を持つ



家庭では直ぐ釜が底をつきます。その時母親の仕事がお隣さんに借りて来る事、調味料も同じです。平気で貸し借りしていた時代です。恥ずかしさは母親に聞いてみないと分かりませんが、微かな記憶の範囲内では無かつたように思います。夕飯時になると近所で生活の匂いがしますし、家々の煙突からは煙が黙々と立ち上っていました。隣家の話し声も聞こえました。「お互いさま」という言葉が頻繁に使われていたように思います。

吉祥止止の意味と少し離れるかもしれませんが、当時から助け合うことが良い事とはだれも思つてなかつたのではないのでしょうか？ 当たり前に普通に行われていたような気がします。核家族が進み、町の空洞化も目立ちますが、心の空洞化だけは避けたいと思いますし、「お互いさま」の心に戻り、日々楽しく不安のない生活を送りたいと思います。

浄土真宗の生活信条の「み仏の恵みを喜び 互にうやまい助け合い 社会のために 尽くします」を多くの人に伝えて行きます。春までまだ程遠く、冬は嫌いと感じる人がいれば、あと数ヶ月で春が来るので待ち遠しいと思う人もいるでしょう。人それぞれ考え方がありますが、間違いなくもう少しで春が来て桜が咲きます。最後に生まれて四季折々の季節感を感じることに感謝して、寺との縁を深めて行きたいと思ひます。

## 回顧



新潟組 信生寺  
長場昭一（釋弘宣）  
中央教修一三五回

平成12年3月、同期生6名、一緒に京都聞法会館で決意表明を胸に抱き門徒推進員になりました。現在新潟組の門徒推進員は19名の会員数です。

新潟組では連続研修を卒業した人を研事に即入会となり、約50名で活躍しております。総会にはお寺様の法話を聴聞しています。今年度は新潟組各委員会合同の研修会で仏教落語「露の円姫」師講演を楽しく聴聞し、平成26年5月に長岡で行う「親鸞となむの大地」に日帰り計画を立てています。

私が門徒推進員となって15年の経過を考えると、後期高齢者の身となり、「後生の大事を心にかけて、阿弥陀仏を深くたのみまいらせて、念仏申すべきなり」の一文に感無量です。

我人生を振り返ると、非常に心に残る悔まれる親不孝をしたことを謝りたい。私が38歳の時、「老舗」4代目のお店を「対物返濟」の形で住宅・店舗も無くしてしまつた事です。浅学無知、短慮、お人好しで騙されたり、自業自得を痛感するも「一から出

直し」を心に決め、それなりに頑張り現在安穩の生活に至っております。

今の世情を見ると「災い転じて福と成す」早番店を閉じてこれで良かったのかと思ったりしますが、「親孝行したい時に親は無し」と諺通りすでに両親は亡く、残念で仕方ありません。今は阿弥陀様に護られて幸せです。

合 掌



## 受け継ぐ暮らし



新潟組 林徳寺  
田邊諄子(釋志心)  
中央教修一六〇回

新潟教区門徒推進員連絡協議会30周年記念大会が平成25年10月20日開催されました。当新潟教区は先輩方々のご努力により宗門で最初の門徒推進員連絡協議会の設立であったそうです。記念すべき大会を終えて、その道のりの歩みの先を感じます。私は今、NHKカルチャーセンターの講座で「歎異抄を味わう」を受講しています。これは、新潟市仏教会の依頼により行われている講座で、聞法の正しさ、そして伝え方の危なさを学んでいます。

今の社会生活の中で仏教が私達の気付けぬ処で、生活の中の言葉使いの中や生活での行動や年中行事、その他私達の生き方にとだけだけの道筋を作り、それを生活の信条として今の私たちがいるのだと気付かせてもらっています。生きる事は目に見えない心の支えを、求めることが多く起こります。その事に対する気付きや答え、その行動をその折々に感じとり、受け止めて考え、いつの間にか次の世代がその有様を受け止めて受け継ぎ生活していく事を願っています。

又、連研が動き始めています。連研の活動が前へ踏み出したことであり、私は何をお手伝いするのかとご縁を戴き、出来る事から進みたいと思っています。

合 掌



## 門徒推進員5年の反省



巻組 長光寺  
梨本重雄(釋重願)  
中央教修一九七回

平成21年夏、蒸し暑くもなく、そして静かな中での一九七回中央教修でした。

教修から帰ってきてまもなくの頃、兵庫県で災害がありました。「お世話になった杵築さんのお寺が被害に遭われた、お見舞いをしませんか？」と九州の方から連絡があり、お見舞いをしました。杵築さんから年賀状で復旧の様子が毎年知らされてきます。現在はほぼ回復したようです。たすけあいでしょうか、ご縁あつて皆さんと繋がっていると感じています。

新潟教区門徒協30周年に立ち会えたこと、幸運でした。先輩の方々と比べることはもとより、自分のこれまでを振り返るには、5年という日数では少なすぎるとの思いです。しかし、次への一步とするには一区切りとする良い機会です。

たしか、「私は浄土真宗の教えの通りに生きてまいります」と決意表明をしました。決意から5年、組や教区の催しに参加するたびに、いつかは自分もとの思いで皆さんの活動を見てきました。疎かな私は未だ浄

土真宗というものを何一つ理解出来ていません。でも今は、自分なりによいのではと  
思っています。

「南無阿弥陀仏」と称える事だけで、強  
く明るく生き抜いて浄土へ行く。そういう  
人生を送るために、今改めて「私は浄土真  
宗の教えの通りに生きてまいります」と決  
意を表明します。

まずは、生活信条と食事の言葉から…。

## お寺 de 夏まつり

### 巻組フェスティバルに参加して



巻組 長厳寺  
平野恒義（釋頭道）  
中央教修一八四回

去る平成25年7月28日（日）新潟西蒲区  
にある願正寺を会場に開催された標記行事  
にスタッフの一員として手伝いと行事に参  
加する機会がありました。

「巻組全体での初めてのキッズサンガ」  
であり「参加する誰もが楽しめる内容にし  
よう」と巻組フェスティバル実行委員会  
で決め、各担当ごとに事前準備が進められて  
いたしました。



当日は晴天に恵まれ、午前中からスタッ  
フや門徒による作業が始まり、午後からは  
子ども達と保護者の皆様が加わり、総勢百  
余名が「仏参ではじまり仏参で終了」する  
まで6時間にわたり、各種ゲームを楽しみ、  
竹細工（箸、器の制作・流し）そうめんセッ  
トの制作、組み立て、設置）、女性班による  
食材の準備等々に全員で取り組みました。

そうめん流しの時間帯には設置された青  
竹に水道水が注がれ、青竹に対面状態に並  
び、手製の箸と器を持つ子ども・保護者・  
手すきのスタッフが並び、そうめんやフル  
ーツが流れ来るのを待ち構え、掴みあげて  
は器に入れ、友達と言葉を交わしながら美  
味しそうにいただく笑顔を見ていると、こ  
のイベントに参加し手伝い出来た喜びが心  
に広がり、次回の期待も膨らみました。  
キッズサンガ活動に初めて参加して一面  
を体験し、門徒推進員としての勤めが一つ  
加わったことを自覚した活動でした。

#### || 編集後記 ||

作家志望の人間以外は、作文（文  
章をつくること）は誰しも不得手で  
ある者です。

氷が溶けると（正解は…水になり  
ますが）門徒推進員には…「春」に  
なります。

やっと、会報「新潟の門徒推進員」  
にも第11号発刊の「春」の時節が訪  
れました！

寄稿処士のご協力に感謝致してお  
ります。

三条組 光照寺 小澤悦郎